INFORMATION

◆ **開館時間**
9:00～16:30（入館は16:00まで）

◆ **休館日**
月曜日（その日が祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月29日～1月1日）

◆ **入館料**
●一般（大人）……300円
団体（20名以上）……250円

●児童／生徒／学生……100円
団体（20名以上）……80円
心身に障害をお持ちの方及び、
市内居住で65歳以上の方は無料です。

交通機関

◆ **自動車**
東京より約2時間30分
（常磐自動車道北茨城I.Cより約10分）

◆ **鉄道**
東京より約1時間50分（JR特急ひたち）
※JR磯原駅から徒歩で約20分、
タクシーで約5分。

ご来館記念（記念スタンプを押印して下さい。）

野口雨情

Ujo Noguchi

北茨城市歴史民俗資料館
野口雨情記念館
〒319-1541 茨城県北茨城市磯原町磯原130-1
TEL／FAX 0293（43）4160
ホームページアドレス http://www.ujokinenkan.jp

雨情プロフィール

野口雨情生家

■生い立ち

野口雨情は、明治15年(1882)5月29日茨城県多賀郡磯原村(現北茨城市磯原町)に父量平、母てるの長男として生まれ英吉と名付けられました。

生家は、かつて水戸徳川家藩主の御休息所で「観海亭」と称され「磯原御殿」とも言われた名家で、家業は廻船業を営み、父は村長を2期勤めた人望家でもありました。

明治30年(1897)伯父の衆議院議員野口勝一(北巌)宅に寄宿し、同34年4月、東京専門学校高等予科文学科(現早稲田大学)に入学しますが、1年余で中退しています。

東京専門学校入学時
(右から2人目)

少年時代より文学的素養にとみ、回覧雑誌への掲載のために民謡風の詩作をしていたと言われています。

■詩壇登場と漂泊のころ

雨情の詩人としてのスタートは、不運と失意のくりかえしでした。明治35年(1902) 3月、文芸雑誌「小柴舟」によって詩壇に登場しますが著名の域までにはいたりませんでした。

同37年父の死により帰郷、家督相続、そして高塩ひろと結婚。同38年3月、処女詩集「枯草」を自費出版したものの中央詩壇までは響きませんでした。

同39年樺太に渡り、のち早稲田詩社の結成に参加し、やがて北海道に新聞記者として渡り2年余漂泊しました。この間、石川啄木との交友がありました。

明治45年中央より離れて帰郷し詩作活動を続けながら村の公職にも就いています。

■童謡・民謡詩人としての活躍

大正4年(1915)妻ひろと離婚の後、現いわき市常磐湯本町の柏屋に移り、詩作活動を続けます。同7年水戸へ出て「茨城少年」の編集にあたりながら童謡作品を発表し、秋、中里つると結婚します。同8年、西条八十等の紹介もあり中央の児童雑誌に童謡作品の発表を開始します。

また自由詩集「都会と田園」の刊行により詩壇復帰を果たします。著名な「船頭小唄」(原名枯れすすき)を作詩し、中山晋平に作曲を依頼したのもこの頃です。同10年には、「七つの子」「赤い靴」「青い眼の人形」などの作品を発表し、同11年から「コドモノクニ」にも作品を発表します。「雨降りお月さん」「あの町この町」「兎のダンス」等は、この雑誌に掲載されました。作曲家の本居長世、中山晋平、藤井清水等が雨情の詩作に最適の曲譜を付けたことも好運でした。

講演中の野口雨情

雨情はこの時期ごろから全国各地への童謡・民謡普及のための講演旅行が多くなり、その足跡は国内のみならず当時の台湾、朝鮮・満州・蒙古にまで及んでいます。新民謡作品も「須坂小唄」をはじめ、全国各地で数百編にもなります。

昭和10年(1935)ごろから詩作は減少し、同18年病に倒れます。同19年宇都宮郊外に戦火を避けて疎開します。昭和20年(1945)1月27日、永眠、行年63歳。

雨情は常に「民衆の間にうたい継がれてきた童謡・民謡を芸術的な水準にまで高揚させ、民衆の中に生きる芸術として育成したい」という目的意識をもっていたと思われます。

雨情年表

M15年 1882	5月29日、茨城県多賀郡磯原村(現北茨城市磯原町)に父量平、母てるの長男として出生。
M30年 1897	4月上京、東京数学院中学へ入学。(のち、順天中学に編入)この頃、小川芋銭と知り合う。
M34年 1901	東京専門学校高等予科文学科(現早稲田大学)入学。坪内逍遥の薫陶をうける。
M37年 1904	父、死去。帰郷し家督を継承11月、栃木県喜連川の高塩家の婿「ひろ」と結婚。
M40年 1907	「早稲田文学」に詩作品を掲載。新聞記者として北海道へ渡り、札幌の「北鳴新報社」入社。石川啄木と知友となる。
M42年 1909	北海道を離れ、帰郷後、上京する。
M45年 1912	故郷に帰る。山林管理や、漁業組合の公職につき、雑誌なども刊行する。
T4年 1915	妻ひろと協議離婚。のち、二児を連れて、湯本の柏屋に住む。
T8年 1919	詩集「都会と田園」で詩壇復帰。「枯れすすき」作詩、中山晋平に作曲依頼。(のちの船頭小唄)「金の船」に童謡作品を発表。
T10年 1921	童謡集「十五夜お月さん」、「七つの子」「赤い靴」発表。民謡童話「愛の歌」を出版。民謡、童謡普及の講演旅行へ。
T11年 1922	「コドモノクニ」に童謡作品の発表開始。評論「童謡の作りやう」を出版。「蕃金虫」「シャボン玉」発表。
T13年 1924	「あの町この町」「波浮の港」発表、童謡集「青い眼の人形」を出版。「浦賀寺の狸囃子」発表。
T14年 1925	「雨ふりお月さん」発表。評論「童謡と藝心芸術」を出版。
S4年 1929	民謡集「波浮の港」を出版。「全国民謡かるた」を出版。雑誌「民謡音楽」主宰。
S10年 1935	日本民謡協会を再興し理事長となる。
S15年 1940	このころから4年間、全国各地を巡訪し、地方小唄を作詞。
S19年 1944	栃木県河内郡姿川村鶴田(現、宇都宮市)に転居し、疎開生活に入る。
S20年 1945	1月27日、永眠。

主な作品

十五夜お月さん
（作曲　本居 長世）

十五夜お月さん
ごきげんさん
婆やは お暇とりました
十五夜お月さん
妹は
田舎へ貰られて
ゆきました
十五夜お月さん 母さんに
も一度
わたしは あいたいな

「十五夜お月さん」は、雨情の代表作であるばかりでなく、童謡そのものの芸術的認識を高めた作品だといえます。発表時には「十五夜お月」でしたが、本居長世によって付曲されたときに、「十五夜お月さん」とされ、親しまれています。作曲者の本居長世は、雨情の詩の世界にふさわしい、日本的で抒情あふれる旋律の名曲を数多く作り出しています。この曲にも静かさの中の美しさ、言いしれぬ哀感がこめられています。大正9年の発表会では、長世の長女みどりが歌い大好評を得ました。

「金の船」第2巻第9号（復刻）
岡本帰一挿絵

シャボン玉
（作曲　中山 晋平）

シャボン玉 飛んだ
屋根まで飛んだ
屋根まで飛んで
こわれて消えた
シャボン玉 消えた
飛ばずに消えた
生まれてすぐに
こわれて消えた
風 風 吹くな
シャボン玉 飛ばそ

『シャボン玉』という作品も「七つの子」同様解釈が分かれています。発表当時この作品は、当時一般化したしゃぼん玉遊びの子供の無邪気な様子を題材にしたもの、また、別の解釈では、生後間もなく亡くなった我が子への鎮魂歌であるといわれています。しかし、そうした解釈の違いを超えて多くの人に親しまれており、雨情の代表的な童謡の一つとなっていることは確かです。「正風の童謡が、子供の生活を土台としなければならない」という創作に対する姿勢が込められているからでしょう。

「金の船童謡小曲」第3集

七つの子
（作曲　本居 長世）

烏 なぜ啼くの
烏は 山に
可愛 七つの
子があるからよ
可愛可愛と
烏は啼くの
可愛可愛と
啼くんだよ
山の古巣に
いつて見て御覧
丸い目をした
いゝ子だよ

この曲の原型は、明治40年出版の月刊詩集「朝花夜花」に収められていた「山鳥」という詩で、大正10年に改作し、発表したのが童謡「七つの子」です。「七つ」の解釈は、7歳の子供という説や7羽の子という説があり、今でも、はっきりしていません。雨情は、著書の中で「この歌調中に丸い眼をしたいこだよと歌ったところに童謡の境地があることを考えてください。童謡の境地はいかなる場合にも愛の世界であり、人情の世界でなくてはならないのであります。」と述べています。

「金の船」第3巻第7号（復刻）
岡本帰一挿絵

青い眼の人形
（作曲　本居 長世）

青い目をした お人形は
アメリカ生まれの セルロイト
日本の港へ ついたとき
一杯涙を うかべてた
「わたしは言葉が わからない
迷ひ子になつたら なんとせう」
優しい日本の 嬢ちゃんよ
仲よく遊んで 遣つとくれ

この曲は、本居長世と三人の娘たちによって全国に広がり、大正12年のアメリカでの演奏旅行でも歌われました。発表時には「青い目の人形」でしたが童謡集収録の際「目」が「眼」に変更されました。昭和2年、日米親善の証として、約13,000体の西洋人形が、日本の幼稚園、小学校に贈られ、お礼として日本人形58体がアメリカに贈られています。しかし、太平洋戦争の影響で、人形の多くが失われました。人形歓迎会で歌われたこの歌には、異国の人形への優しさや、思いやりが感じられます。

「金の船」第3巻第12号（復刻）

主な作品

赤い靴
（作曲　本居 長世）

赤い靴　はいてゐた　女の子
異人さんにつれられて　行つちやつた
横浜の　埠頭から　汽船に乗つて
異人さんに　つれられて　行つちやつた
今では　賣い目に　なつちやつて
異人さんの　お国に　ゐるんだらう
赤い靴　見るたび　思ひ出す
異人さん　見るたび　思ひ出す

親元を離れアメリカ人夫妻の養女となりましたが、病のために渡米することができず、わずか9歳で夭折した少女がモデルとなったといわれています。雨情は著書『童謡と童心藝術』の自作解説で、「この童謡は表面から見ただけでは単に異人さんにつれられていつた子供といふにすぎませんが、赤い靴とか、青い目になつてしまつただらうとかいふことばのかげにはその女の児に対する惻隠の情がふくまれてゐることを見逃さぬやうにしていただきたいのであります。」と述べています。

金の鍵童謡曲譜第4輯「赤い靴」「赤い靴楽譜（本居長世編曲）」（複製）（上）

證城寺の狸囃子
（作曲　中山 晋平）

雨情のユーモアに溢れた童心の詩に、中山晋平のリズミカルな付曲により発表され、この歌が広まると、モデルとなった證誠寺の住職から「不謹慎である」との抗議を受けました。雨情は「證誠寺」ではなく、「證城寺」であるとして抗議をかわしたということですが、歌が流行するとともに、木更津市のこの寺は有名になり、「證城寺の狸囃」の寺として参拝者が増えていきました。昭和31年には、境内に雨情直筆の歌詞一節と、晋平の楽譜の一節を刻んだ「狸ばやし童謡碑」が建立されています。

證、證、證城寺　證城寺の庭は
ツ、ツ、月夜だ　皆出て來い來い來い
己等の友達ァ　ぽんぽこぽんのぽん
負けるな、負けるな
和尚さんに負けるな
來い、來い、來い來い來
皆出て、來い來い來い
證、證、證城寺　證城寺の萩は
ツ、ツ、月夜に　花盛り
己等の友達ァ　ぽんぽこぽんのぽん

「金の鍵」第7巻第1号（復刻）

船頭小唄
（作曲　中山 晋平）

己は河原の　枯れ芒
同じお前も　枯れ芒
どうせ二人は　枯れた真孤に
この世では　照らしてる
花の咲かない　潮来出鵜の
枯れ芒　お月さん
わたしやこれから
利根川の
船の船頭で
暮らさうよ
死ぬも生きるも
ねーお前
水の流れに何變ろ
己もお前も利根川の
船の船頭で
暮らさうよ

詩壇復帰をめざしていた38歳の頃の雨情は、焦燥と失意の中にありました。それを慰め励ましたのがつる夫人で、この詩はその心象風景だったのです。作曲を依頼された中山晋平は、その詩（原題『枯れすすき』）が「いやに暗い詩で、読んだだけで泣き歌になってしまう、それに『枯れすすき』では唄にならない」と題名は「船頭小唄」と改められ、演歌師達のバイオリンの音にのって大流行しました。伝記映画「雨情」の中で森繁久弥が歌い、いまなお歌い継がれる名曲となっています。

「船頭小唄」大正10年3月 初版 山野楽器店

波浮の港
（作曲　中山 晋平）

磯の鵜の鳥りや
日暮れにやかへる
波浮の港にや
夕やけ　小やけ
あすの日和は
ヤレホンニサ
なぎるやら
島で暮らすにや
とぼしうてならぬ
伊豆の伊豆とは
郵便だより
下田港とは
ヤレホンニサ
風だより
船もせかれりや
出船の仕度
島の娘たちや
御神火ぐらし
なちよな心で
ヤレホンニサ
みるのやら
風は潮風
御神火颪
島の娘達や
出船のときにや
船のともづな
ヤレホンニサ
泣いて解く

大正13年、雑誌『婦人世界』6月号に発表されました。2、3ヶ月後、中山晋平が雨情を訪れた時、つる夫人がたまたまこの雑誌を見せたところ、中山はこの詩を大変気に入り、作曲したのが「波浮の港」で、歌は空前の大ヒットとなりました。「波浮の港は東南を向いているので港が夕焼けになるはずがない」「鵜の島は大島に棲んでいない」などと指摘を受けた雨情は、「失敗でヤンした、実は平潟をモデルにしたもんでヤンすから。」と苦笑いして言ったそうです。

「波浮の港」昭和4年2月 初版 山野楽器店

雨情を育んだ風土－北茨城－

雨情生家の前に広がる磯原海岸

昭和31年に県下15番目の市として誕生した北茨城市は、茨城県の最北端に位置し、南は高萩市、北は福島県いわき市と接しています。また、市の総面積の約80％は山林で、東部は低地で海岸に面し、市内を流れる大北川、里根川などの流域には、豊かな平坦地がひらけています。古くから農業や漁業を中心に栄えましたが、江戸後期に石炭が発見され、常磐炭田の中核として活況を呈し、今日では、工業地帯として飛躍的な伸展を見せています。また、平潟・大津・磯原地区では、温泉・鉱泉が湧き出し、民宿・旅館が立ち並ぶ観光の名所となっています。

ぶなの自然林

東京から180kmの太平洋に面した自然の豊かさは、岡倉天心や野口雨情など多くの芸術家や文化人を育みました。茨城県天心記念五浦美術館など文化、自然に親しめる首都圏のリゾート地として注目されています。

●市の鳥　カモメ ●市の木　松　●市の花　シャクナゲ
●面 積 186.49km²
●位 置 東経140°45′16″　北緯 36°47′57″
●平均気温　13.5°C (H10年)　●平均降雨　1,660.5mm

■雨情を訪ねて

雨情生家 TEL 0293・42・1891

雨情の生家は、地方きっての名家で、父鼎平は北中郷村の村長の職にもついていた。徳川光圀もしばしば訪れた当家は、その幽観により「観海亭」と命名された。昭和42年、茨城県文化財に指定されている。

野口雨情記念館 TEL 0293・43・4160

全国から収集された雨情の作品や遺品の数々が展示されている。「七つの子」「十五夜お月さん」などの作品が、私たちの心の中にあるノスタルジーを呼びさます。
開館時間　9時～16時30分

磯原駅前からくり時計

磯原駅駅前にある。雨情が作詩した曲とともに、表情豊な「からくり人形」が登場する。演奏時間は、9時・12時・15時・16時・17時・18時・19時の1日7回

船頭小唄の碑

雨情の伝記映画（昭和32年作品）で、雨情役を演じた森繁久弥氏直筆の「船頭小唄」の歌碑

平潟港

「波浮の港」のモデルになった漁港として有名。絶景の名勝地で、アンコウ、ヒラメ、タイなど新鮮な魚が特産。

磯原海岸の歌碑

雨情生家に近い磯原海岸にある歌碑「松に松風磯原は小磯の隣にも波が打つ」

雨情交遊録

中山晋平

SHINPEI NAKAYAMA
1887～1952
作曲家

明治20年現興野県中野市に生まれる。大正3年「カチューシャの唄」、翌年「ゴンドラの唄」「さすらいの唄」などの劇中歌に付曲し『流行歌の始祖』といわれるまでになった。雨情から晋平への作曲依頼が二人の出会いで、大正10年『枯れすすき』後の『船頭小唄』を発表し一世を風靡した。『證城寺の狸囃子』『雨ふりお月さん』『波浮の港』をはじめ、雨情の詩作に200余の付曲をし、昭和27年11月、井の頭公園の一隅に雨情記念碑建立を見届けると、翌月不帰の客となった。

本居長世

NAGAYO MOTOORI
1885～1945
作曲家

明治18年現東京都台東区下谷に生まれる。東京音楽学校を主席で卒業し、演奏家として立ったが大正4年頃作曲家に転向した。野口雨情詩作への作曲は、大正9年の「窓坊主」にはじまり、「十五夜お月さん」により二人の評価は確かなものとなり、「七つの子」「青い眼の人形」「赤い靴」などのヒット曲をはじめ、昭和3年二人の最後のコンビ曲「天神様のお手習ひ」まで110余曲にのぼる。昭和20年10月、1月に病没した雨情を追うように、60年の生涯を閉じた。

藤井清水

KIYOMI FUJI
1889～1944
作曲家

明治22年 現広島県呉市に生まれる。歌曲・童謡・民謡に日本の伝統的な音階を中心に使って、日本風のメロディーを新しい形で生み出した。大正6年、権藤円立らと“楽波團”を創立、のち野口雨情も同人となり、全国に渡り民謡童謡公演演奏行脚を行い“三羽烏”といわれた。雨情とのコンビによる曲は「信田の藪」「港の時雨」「おかよ」「磯原節」をはじめとする童謡・民謡・地方小唄・校歌など多岐にわたり330余曲にのぼっている。

北原白秋

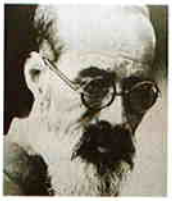
HAKUSHU KITAHARA
1885～1941
詩人・歌人

明治18年現福岡県柳川市に生まれる。明治39年与謝野寛の招きにより『明星』を舞台に頽廃的な感覚詩を次々と発表。明治42年、処女詩集「邪宗門」、大正3年処女歌集「桐の花」など異国情緒・官能主義豊かな作品を発表。「からたちの花」「この道」「ペチカ」「城ヶ島の雨」など数多くの名作を残した。白秋の精神の根源にある“郷土愛”“温かさ”は雨情と合い通ずるものがあり、大正7年『赤い鳥』で童謡を発表以来、童謡は1,200編におよび、西條八十、野口雨情とともに童謡詩人の三巨匠といわれた。

西条八十

YASO SAIJYOU
1892～1970
詩人

明治25年現東京都新宿区払方町に生まれる。中学時代から野口雨情の「朝花夜花」にあこがれ、早稲田大学在学中から『早稲田文学』に作品を発表し詩人として活躍した。大正7年、童謡「かなりや」を発表し高い評価を得、童謡詩人としての地位を確かなものにした。昭和4年、映画主題歌「東京行進曲」は爆発的人気となった。昭和12年「愛染かつら」以来、「東京ブルース」「支那の夜」「誰か故郷を思わざる」等々、間断なくヒット曲を飛ばした。



小川芋銭

USEN OGAWA
1868～1938
画家・俳人

明治元年江戸赤坂の牛久藩大目付の長男として生まれ、明治4年、現茨城県牛久市に移住する。13歳ごろから絵に熱中し独力で絵を学ぶ。明治24年、芋銭の雅号によりスケッチ、漫画を掲載する。その後、漫画、挿絵、陶芸、俳画などを出品するとともに詩作も行う。大正6年、横山大観らの推挙により日本美術院同人となる。晩年の「河童百題」など、河童は有名。雨情の少年時代より交友あり、雨情の処女詩集「枯草」への論評をはじめ、「雨情民謡百篇」には、裏紙装幀に“芋銭子画”の署名が入っている。

石川啄木記念館所蔵

石川啄木

TAKUBOKU ISHIKAWA
1886～1912
歌人・詩人

明治19年現岩手県岩手郡玉山村日戸に生まれる。明治35年盛岡中学を中退後、文学により身を立てるべく上京する。翌年『明星』に啄木の名で五篇の長詩を発表し注目を集める。その後、北海道に移住し流浪と貧困の生活を送るが、雨情とは、小樽日報の創業に参加し、同僚として働いて親交を深めた。明治43年に処女歌集「一握の砂」の発表により第一線歌人の地位を確立した。明治45年4月、26歳の若さでこの世を去った。

佐藤千夜子

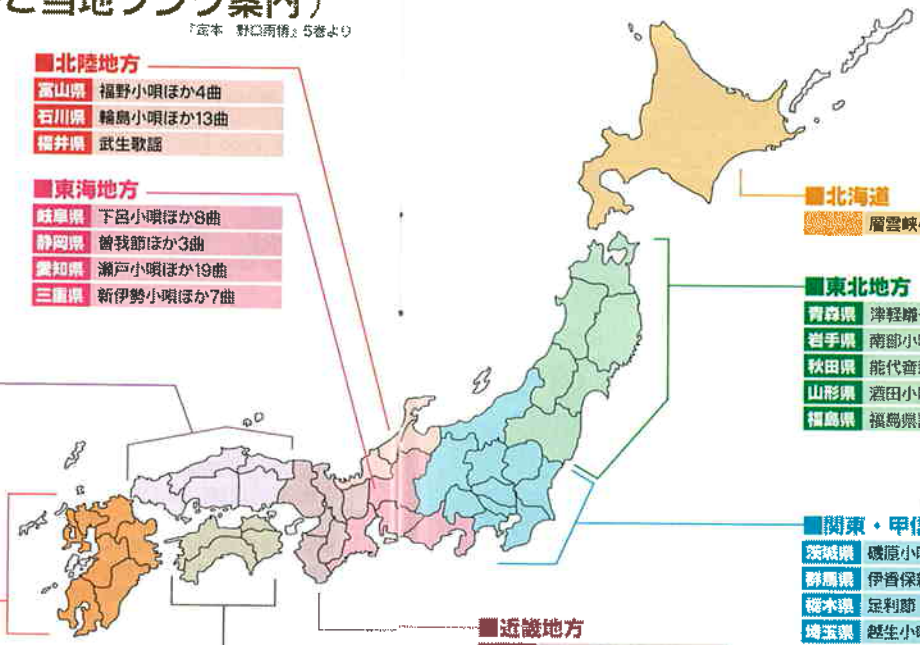
CHIYAKO SATO
1897～1968
歌手

明治30年現山形県天童市に生まれる。中山晋平にみとめられ、昭和2年日本ビクターに入社。ヒット曲「波浮の港（作詩野口雨情）」でデビュー、昭和4年には空前の大ヒット曲となった「東京行進曲」（作詩西條八十）、「紅屋の娘」、翌年の「唐人お吉」などにより流行歌手第1号として脚光を集め、野口雨情、中山晋平の企画する全国歌の旅に参加し、童謡・民謡の普及に努めた。

雨情の足跡（全国ご当地ソング案内）

『定本　野口雨情』5巻より

雨情は、63年の生涯の中で、2,000余点にのぼる詩を残しています。童謡のほか、日本全国をはじめ当時の樺太、朝鮮、満州、台湾にいたるまで多くの地方民謡（ご当地ソング）を作っています。



■北陸地方

富山県	福野小唄ほか4曲
石川県	輪島小唄ほか13曲
福井県	武生歌謡

■東海地方

岐阜県	下呂小唄ほか8曲
静岡県	曽我節ほか3曲
愛知県	瀬戸小唄ほか19曲
三重県	新伊勢小唄ほか7曲

■北海道

[illegible]	層雲峡小唄ほか8曲

■東北地方

青森県	津軽囃子ほか2曲
岩手県	南部小唄
秋田県	能代音頭
山形県	酒田小唄ほか3曲
福島県	福島県歌

■中国地方

鳥取県	三朝小唄ほか11曲
島根県	松江民謡ほか15曲
岡山県	岡山小唄ほか3曲
広島県	呉小唄ほか17曲
山口県	宇部小唄ほか15曲

■関東・甲信越地方

茨城県	磯原小唄ほか10曲
群馬県	伊香保新小唄ほか1曲
栃木県	足利節
埼玉県	越生小唄ほか3曲
千葉県	大利根小唄ほか4曲
東京都	井の頭音頭ほか18曲
神奈川県	箱の下音頭ほか3曲
山梨県	下部小唄ほか2曲
長野県	中野小唄ほか5曲
新潟県	新津小唄ほか4曲

■九州地方

福岡県	小倉節ほか9曲
佐賀県	唐津小唄ほか1曲
長崎県	佐世保小唄ほか3曲
熊本県	天草温泉小唄ほか24曲
宮崎県	延岡小唄ほか18曲
鹿児島県	加世田小唄ほか10曲
大分県	大分流し節ほか8曲

■四国地方

徳島県	鳴門小唄ほか13曲
香川県	高松小唄ほか4曲
愛媛県	今治音頭ほか9曲
高知県	甲浦民謡ほか15曲

■近畿地方

滋賀県	長浜節ほか8曲
京都府	亀岡小唄ほか2曲
大阪府	大阪音頭ほか1曲
兵庫県	高岡小唄ほか14曲
奈良県	信貴山囃子ほか7曲
和歌山県	すさみ温泉小唄ほか8曲

■県内ご当地ソング

■全国校歌案内

雨情の校歌には、未来を担う子供達への励ましの言葉と共に、故郷の自然や歴史が織り込まれている。懐かしさと共に雨情の校歌を、親子三代が歌い継いでいる学校もある。

赤字は現在も歌われている学校　（平成14年4月現在）

県名	学校名	県・国名	学校名
茨城	土浦市立土浦小学校	長崎	佐世保市立大野小学校
東京	八丈町立三根小学校	熊本	鹿北町立岩野小学校
	東京都武蔵野市立第一小学校		五和町立城河原小学校
埼玉	秩父町立商業学校	大分	県立玖珠農業高等学校
	大宮櫻商学校	宮崎	細倉立福島高等女学校
山梨	県立谷村高等女学校		第一北方国民学校
愛知	豊川夜間中学校		延岡市立綱瀬小学校
兵庫	県立姫路工業高等学校		日向市立富高小学校
	香住町立長井小学校		日向市立平岩小学校
和歌山	高野口町立応其小学校	大韓民国	咸陽国民学校
広島	大古尋常高等小学校		麗水東町公立尋常高等小学校
	熊野町立第一小学校		清州公立尋常小学校
	柿湯尋常高等小学校	タイワン	台北州立瀧陽高等女学校
福岡	県立農方高等女学校	中華人民共和国	新京敷島高等女学校

1階展示室　～野口雨情関係～

展示風景

このコーナーでは、雨情の偉業を顕彰し、後世に伝えるため、全国から収集された資料を中心に構成しています。

籠謡とは、籠心より流れて籠心をうたう自然詩である。
籠心とは、天より与えられた純真無垢なもので、全愛の心をもち、もののあはれを感ずるものである。
民謡とは、民族生活の情緒をつたふ唯一の郷土詩であり、土の自然詩である。
これが雨情の籠謡・民謡・詩にたいする信念です

展示室入口レーザーディスク

さらに、1階展示室入口には、「雨情の里きたいばらき」と題して、レーザーディスクが設置され、「野口雨情―郷愁―」「北茨城の観光」「北茨城の産業」「五浦の日本美術院」の4編が録画されており、自由に視聴することができるようになっています。

2階展示室　～北茨城の歴史民俗関係～

「銅鏡」（古墳時代）

このコーナーでは、当市の歴史の流れを知るための貴重な歴史・民俗関係資料や往時の基幹産業であった炭礦関係資料、さらに農林業・漁業関係資料等を展示しています。

2階には、北茨城市の歴史や民俗が資料やパネルの展示によって分かりやすく紹介されています。

細原遺跡から出土した旧石器時代の石器をはじめとする考古資料によって、古代の人々の生活をうかがい知ることができます。また、明治時代から昭和40年代まで隆盛を誇った石炭産業については、実際に使用された機具が数多く展示されています。

「円筒埴輪」
天王塚古墳出土品
（古墳時代）

石炭（約150kg）

幕末イギリス人上陸事件によって知られる大津浜、農業用水「十石堰」の掘削、風船爆弾といった歴史の一場面や、「常陸大津の御船祭り」「大津の盆船流し」などの民俗行事や指定文化財などがパネルによって紹介されています。

常陸大津の御船祭

大津の盆船流し

■北茨城の四季■

新緑がまぶしい

亀谷地湿原
春、ミズバショウが咲く中を歩く気分は最高。

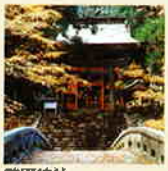
薬師の森ふれあいパーク
美しい眺望を誇る自然地形を利用して造られた多目的パーク。

水と遊ぶ

磯原海水浴場
天妃山や二ツ島の眺めが素晴らしい海水浴場。

花園オートキャンプ場
花園川が流れる自然の中で、快適なキャンプ体験が楽しめます。

紅葉が美しい



花園神社
朱塗りの仁王門、拝殿、本殿があり荘厳です。

花園渓谷
うっそうと茂る樹木。花園渓谷は自然の宝庫です。

湯けむりが立つ

中郷温泉遠りゃんせ
四季折々の風情を楽しみ、体を癒すことができる場所です。

あんこう鍋
冬の味覚あんこう。県北の風土で生まれ育った郷土料理。